

令和8年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」交付申請関係様式

●令和8年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位の	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
06362最上町	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	学校の授業に関わる地域の方々や学習支援員、地域コーディネーターの不足、育成。	各支援員等の発掘。各種研修会等への参加者増加へのPR等の取組。	各支援員等が高齢化になってきていることを踏まえ、各支援員等の増員に向けた取組を年間通して行っているが、定年後もフルタイムで働いている方が多く確保できない。	学校に関わる地域の方々が増加することで、地域学校協働活動の充実が図られ、学校と地域の一層の連携が進む。	学習支援員、各コーディネーターの人数	10	人	13		
06362最上町	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	自主的・自律的な学習習慣の形成には、その学齢や発達段階に応じた小中の一貫した継続的・連続的な指導が必要であるが、特に中学校期においては、学習内容の量・質とも負担が増すことから、形成されつつあった学習習慣が現状にフィットせず、学習意欲や学習成績の低下を招く生徒が増加する傾向にある。	9年間の学びのつながりを大切にした連携を掲げ、小中の共通テーマとして「自ら探究し、学びを深め、高め合う子どもを育てる授業づくり」に取り組む。	各校での授業改善のための研究活動を指導助言するとともに、教育委員会としての学力向上支援員、ICT支援員の配置、図書コーディネーターの全校配置、中学校の地域学校協働本部事業「もがみサポート塾」、各種検定受験の主催と受験料一部助成等々を実施する。	中学校の地域学校連携協働本部事業「もがみサポート塾」で学習方法のアドバイスを専門家から受けることは、家庭での自主学習に好影響をもたらし、学習意欲の向上に結びつく。	「もがみサポート塾」の開設日の全生徒に対する利用生徒の割合	5.5	%	10		

記載不要

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。